

Suzanne



スザンヌ

1986年10月28日 熊本市（旧植木町）生まれ
「クイズヘキサゴンII」、「サンデーネクスト」などに出演し、
同じ九州福岡でも「豆ごほん」にレギュラー出演
2008年11月「熊本県宣伝部長」に就任した

おもてなしに必要なのは
「知る」こと。そして「笑顔」

んだ」と思わ
れることが多
い。例えば、

熊本県宣伝部長のスザンヌさんに、「熊本大好き」と公言する
極意を語ってもらいました

熊本はたくさん良いところがあり
ます。その中でも、やっぱり「水」

が一番の熊本の魅力ですね。水がおい

しいから、野菜もみずみず

しいものができる。水道が

らミネラルウォーターが出

るなんて言いますけど、東京では考え

られません。向こうでは、水道水をそ

のまま飲むなんてできない。熊本を離

れて、水が変わったことで肌がすごく

荒れたんです。「水にお金を出すの？」

と不思議な感覚でしたが、外に出て改

めて熊本の水はきれいなんだって思い
ました。

熊本は自然が豊かで、山も川もあつ

て、少し行

けば海もあ

ります。気

軽に温泉にも行くことができ、とて

もいいですよ。

熊本の人にとって当たり前だと
熊本思っていたことが、他県の人か

らすると、「熊本はそんなことがある

「笑顔」で起こすサプライズ



温泉、阿蘇、熊本城、いきなり団子、馬刺し、
さまざまな誇るものがある、ふるさと『熊本』。
3月12日に開通した九州新幹線に乗って、多く
の人が訪れています。そんな今だからこそ、私
たち一人ひとりが「熊本」を見つめ直し、良
さに気付いてほしいと、熊本を代表する2人に話
を聞いてきました。この記事は、県内市町村の
広報担当者が合同で企画・制作しました。



Kundo Koyama

小山薫堂

1964年6月23日 天草市生まれ。
放送作家として「料理の鉄人」や「THE 世界遺産」など
を手掛ける。その一方で、映画脚本家としても、初脚本
の「おくりびと」が米アカデミー賞外国語映画賞を獲得
するなど高い評価を受けている

当たり前が幸せ
だと感じて欲しい

「くまもとサプライズ」の提案者・小山薫堂さんに「熊本の未来」
には何が必要なのかを聞いてきました

くまもとサプライズは、新幹線開
業で熊本にきた人々を驚かせ

る（サプライ

ズ）企画では

なく、熊本の

人に「日常をリセットしてもらう」た

めの企画です。この企画で、自分の中

で、当たり前だと感じているもので

も、県外から見れば、すごく特別で驚

くような価値をもったものがあること

を知ってもらおうのです。

僕は県外に出て、熊本の良さを実感

しました。上京して体を洗ったり歯を

磨いたりするときに水を使いますが、

そのときに「やっぱり熊本の水はおい

しいなあ」と感じるんです。熊本では

このようなことを思ったことがありま

せん。豊かな地下水を毎日気

持ちよく使うことができる熊

本県民はなんて幸せな人たち

なんだろうと思いました。それが「当

たり前の幸せ」です。

県民の皆さんに、日常生活の中で「当

たり前の幸せ」を見つけていって欲し

いと思います。皆さんが「当たり前」

を再認識することがサプライズにな

り、県外の人への「おもてなし」につ

ながるのではないかと考えています。

僕は、生まれ変わるならシャンパ
ンを作る人になりたいんです。

おめでたいときに、シャンパンで乾杯

するようなことってありますよね？

そんな小さな幸せを演出する人にな

りたいんです。例えば、天使みたい

に、陰に隠れながら、いろんな人生に

ちよつといたずらをして、人と人を巡

り合わせたい。そして幸せになった人

たちをこっそり見るのがうれしいです

ね（笑）くまもとサプライズでも、僕

の役割は、皆さんの背中をちよつと押

してあげるだけだと思っています。そ

れをきっかけに、熊本の魅力に気付い

た人が動いて欲しいですね。

僕は幸せを運ぶ
天使になりたい

そして、地域の
人たちの熱き思い
が、熊本を変えま

す。しかし、全員が熱き思いを持つ必

要はなく、それをみんなが応援してい

くことが大切なのです。熊本の人には、

変えようとしている人を見守り、そし

て応援する人になって欲しい。それ

が熊本の幸せであり、みんなの幸福に

つながると思っていますから。

「新幹線開通」をきっかけに「熊
本の魅力を再発見」してほしいと賛
同した県内の広報担当者が集まり、
取材や写真撮影を行い、みんなで言
葉を選んで作り上げた合同企画で
す。私たちは、取材に一喜一憂しな
がら2人の思いを形にしました。そ
れは、私たちにとってすべてが「サ
プライズ」でした。

2人が語ってくれた熊本の魅力と
は、水や自然などの熊本に住む私た
ちにとって当たり前のものでした。
しかし、それは日常生活の中に当た
り前に浸透していて、その価値にな
かなか気付くことができません。
「当たり前が幸せ」と小山さん。熊
本の当たり前が他県の人から見ると、
驚くこと」とスザンヌさん。

小山さんは「隣町にも、こんな良
いところがあるんですよ」って褒め
あえたら熊本はもっと素晴らしい県
になる」と話しました。熊本の良さ
を見つけたら、日本が新幹線であつ
ながつていくように、自分のことだけ
でなく、互いに手をつなぐ。たった
一人の思いや行動が連鎖し、そこに
共感が生まれる…。今回の合同企画
が、そんなきっかけになればと思
います。

おもてなしには忘れてはならない
笑顔添えて、熊本にサプライズを
起こしましょう。